

動物実験に関する検証結果報告書

株式会社 国際電気通信基礎技術研究所

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2022年3月

2022年3月7日

株式会社 国際電気通信基礎技術研究所
代表取締役社長 浅見 徹 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会
理事長 三好



対象機関：株式会社 国際電気通信基礎技術研究所

申請年月日：2021年8月6日

訪問調査年月日：2021年11月25日

調査員：松田幸久、小野悦郎

検証の総評

「株式会社国際電気通信基礎技術研究所（以下「ATR」という。）」は脳情報科学、インターラクション科学、無線通信技術及び生命科学の分野に関する5つの研究所を有する社員226名（研究者148名）の民間企業である。動物実験は多臓器連関システム（生体内の個々の臓器がそれぞれのネットワークを形成し生命維持に必要な調整を行うシステム）の研究のために佐藤匠徳特別研究所にある動物実験施設で行われ、飼養されている動物種としてはマウス及びゼブラフィッシュである。動物実験は年間に10件程度と少なく、その計画書は動物実験委員会において適正に審査され、文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」に則して実施されている。動物の飼養保管は環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に則して適正な環境下に行われている。特に動物実験委員会に社外から動物実験の専門家を多く入れていることは高く評価できる。しかしながら、自己点検・評価報告書に2014年に制定された「動物実験等の実施に関する規程（以下、「機関内規程」という。）」には幾つかの不備があり2021年度内に改定予定である。したがって「国立大学法人動物実験施設協議会（以下「国動協」という。）」及び「公私立大学実験動物施設協議会（以下「公私動協」という。）」の「動物実験規程（雑形）」さらに本検証での指摘事項を踏まえて予定通りに改定を実施されたい。また、委員会による定期的な施設視察及び実験動物管理者への適切な教育訓練の実施を検討し、機関管理の充実を図られたい。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する機関内規程を定めている。
- 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

2014年4月に定められた機関内規程は「基本指針」及び「飼養保管基準」に概ね則しているが、「管理者」及び「飼養者」等の定義が一般的ではなく、また「実験動物管理者」が定義に含まれていない。さらに「研究機関の長の責務」についての具体的な説明がないなど、一部に記載されていない事項がある。よって、機関内規程について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
- 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程が定められていない。

4) 改善に向けた意見

自己点検・評価報告書において2021年度内に「研究機関の長の責務」並びに危害防止に配慮した施設構造及び飼養保管方法の確保についての具体的な説明を記すなど「公私動協」の「動物実験規程（雑形）第3版」及び最新情報を参考に改正予定のことであるが、「管理者」「飼養者」及び「実験動物管理者」に関する規定の整備など本検証での指摘事項も踏まえて規程の改定を実施されたい。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。
- 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会を設置していない。

2) 自己点検・評価の妥当性

機関内規程において、「基本指針」に則した委員会の役割や委員構成などが定められ、「基本指針」が定める3種のカテゴリーごとに複数の委員が任命されている。また、動物実験委員会に社外から動物実験に関する専門家を多く入れていることは高く評価できる。よって、動物実験委員

会について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果
<ul style="list-style-type: none"> ■ 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 □ 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験委員会は置かれていない。
4) 改善に向けた意見
<p>「動物実験に関して優れた識見を有する者」及び「実験動物に関して優れた識見を有する者」に該当する社内の委員を追加することが望ましい。特に、実験動物の飼養保管状況並びに動物実験の実施状況を把握している実験動物管理者を委員に加えることを検討されたい。</p>

3. 動物実験の実施体制
1) 機関による自己点検・評価結果
<ul style="list-style-type: none"> □ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 ■ 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検・評価の妥当性
<p>動物実験の実施に必要な機関内規程等及び各種様式は概ね適正に定められている。よって、動物実験の実施体制について、「動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。」とする。</p>
3) 検証の結果
<ul style="list-style-type: none"> ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 □ 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験の実施体制が定められていない。
4) 改善に向けた意見
<p>飼養保管施設の新設あるいは廃止も考慮し、飼養保管施設の廃止届様式を整備されたい。</p>

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制
1) 機関による自己点検・評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ■ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 □ 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性
<p>遺伝子組換え動物を用いる実験は ATR 遺伝子組換え生物等安全管理委員会が設置され、関連規定及び様式も整備されている。また「物理的又は化学的に危険な材料」及び「病原体」を用いた動物実験は実施されておらず、今後も行う予定はない。よって、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
3) 検証の結果
<ul style="list-style-type: none"> ■ 該当する動物実験の実施体制が定められている。 □ 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 □ 該当する動物実験の実施体制が定められていない。 □ 該当する動物実験は、行われていない。
4) 改善に向けた意見
<p>自己点検・評価報告書では「物理的又は化学的に危険な材料」及び「病原体」を用いた動物実験に関しては規程から削除するとあり、確実に実施されたい。</p>

5. 実験動物の飼養保管の体制
1) 機関による自己点検・評価結果
<ul style="list-style-type: none"> □ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 ■ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性
<p>自己点検・評価報告書には「飼養保管基準」に則して動物実験管理者が置かれ、「動物実験規程」「動物実験施設利用の手引き（以下「実験施設手引き」という。）」及び「水槽室利用の手引き（以下「水槽室手引き」という。）」を定め、必要な事項を概ね満たしているが、「実験施設手引き」と「水槽室手引き」に「関係者相互の情報の共有」について記載されていないとある。しかし「関係者相互の情報の共有」については「国動協」の「機関内規程ひな形 第四版」にあるように「人に危害を加える等のおそれがある実験動物」に対してであり、貴施設のマウスやゼブラフィッシュにはあたらない。よって、実験動物の飼養保管の体制について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。」とする。</p>
3) 検証の結果
<ul style="list-style-type: none"> ■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見

特になし。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

「ATR」では魚類まで実験動物の対象に含め、適切な動物実験実施体制の整備と管理に努めていることは高く評価できる。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験委員会が年に1回対面形式で開催され、動物実験責任者から申請・提出された動物実験計画書並びに実験結果について適切に審議されていること、変更申請については適宜メール審議されていることを委員会議事録により確認した。よって、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

「動物実験計画申請書」「動物実験計画変更届・変更申請書」「動物実験結果（中間・終了）報告書」及び「動物実験の自己点検票」が動物実験責任者全員から提出されていることを確認した。よって、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験を行っていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験委員会の委員は ATR 遺伝子組換え生物安全管理委員会の委員を兼任していることから遺伝子組換え動物実験に関して適切な情報の共有を可能としている。また、組換え動物の拡散防止が適切に実施されていることを確認した。「物理的又は化学的に危険な材料」及び「病原体」を用いた動物実験は実施されていない。よって、安全管理に注意を要する動物実験等の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は行われていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

マウスへの給餌・給水、ケージ交換及びゼブラフィッシュへの給餌、水槽管理等の日常業務は動物実験施設専属の4人の飼養者により「実験施設手引き」及び「水槽室手引き」に従って適正に実施されており、「実験動物飼養保管状況の自己点検票」も提出されている。また、年に1回実施されているマウスの微生物モニタリング結果も確認した。なお、「実験施設手引き」及び「水槽室手引き」に保守管理点検及び実験動物記録管理の方法等が具体的に記されておらず、改善が必要ではあるものの、実際には保守点検と実験動物の記録は適切に実施されている。よって、実験動物の飼養保管状況について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある」との自己点検・評価報告の結果であるが、「基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

自己点検・評価報告書において 2021 年度内に「実験施設手引き」及び「水槽室手引き」に保守管理点検及び実験動物記録管理の方法等を具体的に記すとあり、確実に実施されたい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

マウス飼育室用精密空調機を含め動物実験施設の設備や装置については必要な保守点検が実施され、修理や消耗品交換等も適切に実施されている。施設設置時に機関内規程の設置基準を満たしていることを確認したが、その後、委員会による視察は行われていない。よって、施設等の維持管理の状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

委員会により、施設等の視察を定期的に実施することを検討されたい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

機関内規程の教育訓練の条項には「人獣共通感染症」についての項目が記載されていないが、教育訓練の実施記録等によって「人獣共通感染症」も含め教育訓練が適切に実施されていることを確認した。「飼養保管基準」には実験動物管理者、実験実施者及び飼養者の別に応じて教育訓練

を行うように記されているが、実験動物管理者の教育研修は実施されていない。よって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

自己点検・評価報告書において2021年度内に機関内規程の教育訓練の条項に「人獣共通感染症」についての項目を追加し、また教育訓練を実施している実験動物管理者が適切な研修を受けられるように配慮するとあり、確実に実施されたい。

後8:00)に限定するなど、きめ細かな運用ルールを定めていることは高く評価できる。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

「動物実験に関する自己点検・評価」が毎年度実施されている。また、自己点検・評価報告書をはじめ、「国動協」及び「公私動協」が要請するすべての情報公開項目を「ATR」のホームページ上に公開している。よって、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

この検証結果報告書もホームページで公開されたい。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

動物実験はすべて佐藤匠徳特別研究所の動物実験施設で行われ、動物実験実施者が少ないこともあり実験動物管理者の指導の下に適切に実施されている。特にマウス及びゼブラフィッシュの適正飼養を考慮し、原則として飼育室及び実験室の利用を照明点灯時間内（午前8:00から午

日実動学-外検発 第R3-36号-報

検証実施証明書

株式会社 国際電気通信
基礎技術研究所
代表取締役社長 浅見 徹 殿

貴機関は 公益社団法人日本実験動物学会
外部検証委員会による「動物実験に関する
外部検証事業」による自己点検・評価を行い
その結果に対する検証を本委員会が実施した
ことを証します

2022年3月7日

公益社団法人日本実験動物学会
理事長 三好 一郎



No.2021-36



Japanese Association for Laboratory Animal Sciences

CERTIFICATE

Dr Tohru Asami
President
Advanced Telecommunications Research Institute International

Dear President

In every Japanese institution under the jurisdiction of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, MEXT, self-inspections and evaluations for the conduct of animal experiment and related activities must be verified by a third party, independent of the research institution concerned.

Japanese Association for Laboratory Animal Science (JALAS) certify that Advanced Telecommunications Research Institute International received "Assessment and Verification Program for Care and Use of Laboratory Animals in 2021".

Sincerely yours

7 March, 2022

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Ichiro Miyoshi".

Ichiro Miyoshi DVM PhD
DJCLAM
President
JALAS

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Masakazu Kita".

Masakazu Kita DVM PhD
Chairman
Assesment and Verification
Committee, JALAS

